

お祝いと感謝の会

アルミ缶で地域の輪広がる

二月二日、鳥茂渡小学校（菅原伊保校長、児童十八人）とPTA（澤口邦善会長）は、児童

が取り組むアルミ缶回収活動や総合学習でお世話になった方々を招き、お祝いと感謝の会を開きました。缶回収活動が評価され本年度、全国的な団体から表彰されたのを記念し企画。児童は歌の披露や料理でもてなし「ありがとうございました」と感謝の気持ちを伝えました。

お祝いと感謝の会には深渡宏村長や、缶回収活動に協力した企業の代表者、総合学習「古里



お祝いと感謝の会（鳥茂渡小体育館）で6台目を贈られ喜ぶ入所者たち（前中央）

を学ぶ」で講師を務めた地域の方々約三十人を招待しました。

一年生四人が「皆さんに感謝の気持ちを込めて企画しました」と歓迎の言葉をあわせて開会。協力いただいた皆さんに手づくりの感謝状を贈り、自分たちで調理した豚汁を振る舞って楽しいひとときを過ごしました。

最後に児童全員で「缶回収活動や総合学習を通じて助け合うことを学びました。これからも力を合わせて頑張ります」と誓っていました。

同校は、平成八年度から空き缶回収活動を展開。村民から集めたり、活動を応援しようと村外からも寄せられます。缶は換金しこれまでに車椅子五台を購入。お祝いと感謝の会で六台目が村特別養護老人ホームうねとり荘（野崎貞信施設長・入所者五十人）に寄贈されました。環境と福祉活動が評価され、食品容器環境美化協会（本部東京）主催の本年度、環境美化教育優良校等表彰のリサイクル活動部門で優秀賞に選ばれました。同校は、本年度の総合学習で



普代パイパス 第2トンネル見事に貫通

ロードヘッダーが始動すると北側入り口には青空が！

地域の産業にスポットを当て、ホウレンソウやユリ、シイタケの栽培、チョウセンアカシジミの保護などに取り組み、活動成果を作文にして、招待者の方々に披露しました。深渡村長は「皆さんが一つの目標に向かって努力した成果で素晴らしいと思います。これからも一生懸命頑張ってください」と激励しました。

二月十二日、普代村国道45号普代バイパス普代第二トンネル貫通式が村野胡桃の現地、国や地元、工事関係者ら約五十人が出席し行われました。地域高規格道路「三陸北縦貫道路」（宮古久慈間約九十キロ）で初の本格着工区間。「普代バイパス」工事計画については「広報ふだい」平成十二年六月号で詳しく紹介。平成十三年九月号は普代バイパス第二トンネル掘削開始に先立ち安全祈願祭、同十月号では、普代バイパス起工式について紹介しています。今月号では、同第二トンネルの貫通式についてお知らせします。

普代バイパス第二トンネルは、掘削開始の合図とともにロードヘッダーと呼ばれる大型機械が始動し、北側の入り口が貫通しました。深渡宏村長、古村利定・三陸国道工事事務所長らが握手。深渡村長は、「立派なトンネルが貫通し、関係者の方々の努力には感謝いたします」と祝辞を述べました。同トンネルは幅員十・五メートル延長三百四



貫通式で喜びを祝い合う深渡村長（中央）、工事関係者ら

十七メートル。同バイパスは延長四・〇のうち、北側の二・三メートルが着工。第一トンネルも三月二十日ごろ工事に入り、両トンネルはことしの夏に完成する予定です。普代バイパスは、一般バイパスとして事業化され、一九九四年に三陸北縦貫道路に編入されました。幅は四車線二十二メートル（当面は二車線十二・五メートル）、設計速度は八十キロ。北側区間は、トンネル二カ所、高架線（延長四百九十メートル）を整備し、二〇〇七年度に完成する予定です。【注】当初の計画では、トンネル延長三百三十一メートルの予定でしたが土質調査の結果、十六メートル延長のトンネル延長三百四十七メートルに変更になっています。